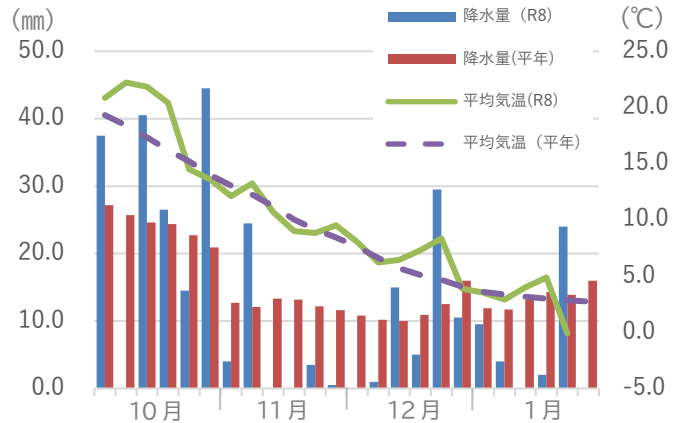


～遅れずに穂肥を施用しましょう～

1 気象と生育状況

12月は平年より高い気温で推移し、1月中下旬は一転して低温となりました。

生育はやや早まる傾向でしたが、低温により停滞し、生育は概ね平年並となっています。



麦生育期間中の気温と降水量

2 収量確保に向けた栽培管理

(1)穂肥 (小麦：びわほなみ)

穂数と1穂粒数を増やし収量確保するため、莖立期に穂肥を施用しましょう。播種時期やほ場条件によって、穂肥時期は変動するので、ほ場を必ず確認しましょう。

ほ場に積雪がある場合は、融雪後に地表面に溜まった融雪水を排水したのちに実施しましょう。

・穂肥の目安(11/10～11/20 播きの場合)

施肥体系	穂肥施用時期の目安	肥料名、施用量(10a 当たり)
分施肥体系 ＜基肥-追肥-穂肥-実肥＞	2月 10～20 日頃	化成肥料 201 20 kg
①省力体系(基肥:麦用セラコートR2500) ＜基肥-穂肥＞	2月 10～20 日頃	麦用セラコート R2500 40～50 kg
②省力体系(基肥:麦將軍または麦パンチ) ＜基肥-穂肥＞	2月 10～20 日頃	麦用セラコート R2500 20 kg
低コスト・後期重点体系 ＜基肥-穂肥①-穂肥②-実肥＞	① 2月 10 日頃	① 尿素 10 kg
	② 3月 10 日頃	② 尿素 10 kg

※尿素は雨で流れやすいため、降雨前の施用を避け、天候の良い日に散布しましょう。

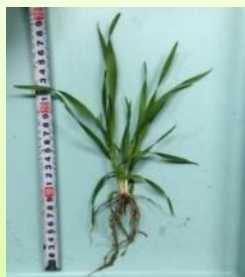
※葉色の低下が著しい場合や生育量が少ない場合は早めに施用しましょう。

莖立期とは

麦の葉が直立し始め、幼穂長の長さが2 cm程度の時。



写真(左): 莖立期頃のほ場



(中): 莖立期頃の株



(右): 麦の主莖長

(2)排水対策

融雪による滞水に注意しましょう！排水不良ほ場では、麦が湿害を受け、肥料を吸収しにくくなります。排水溝（明渠）の溝さらえを行い、排水対策を徹底しましょう！

(3)雑草防除 ～ほ場で雑草を確認しましょう！～

収穫期に、マメ科（カラスノエンドウなど）やハルタデなどの雑草が繁茂したほ場が多数みられました。雑草が多いと収穫や調製作業に影響を与える場合があります。ほ場ごとに雑草の発生状況を観察し、必要に応じて以下を参考に防除を検討してください。

①カラスノエンドウが多い場合

MCPソーダ塩

カラスノエンドウ、スズメノエンドウ等のマメ科雑草に効果があります。

散布の目安時期は2月末から3月上旬頃で、幼穂形成期（但し、収穫45日前まで）です。

適用登録範囲内（収穫45日前まで）で散布を遅らせると効果は高まります。



写真1 カラスノエンドウ(2月撮影)



写真2 麦に絡みついたカラスノエンドウ

②ハルタデが多い場合

ハーモニーDF

ハルタデ、スズメノテッポウ等の雑草に効果があります。

ハルタデの場合、散布の目安時期は2月末から3月中旬頃で、幼穂形成期～穂ばらみ期（但し、収穫45日前まで）です。 ※節間伸長期～穂ばらみ期の使用は小麦のみ。大麦は使用できません。

播種後、ハーモニー細粒剤Fを使用した場合は、麦生育中期にハーモニーDFを使用できません。

バサグラン液剤

ハルタデ等の広葉雑草に効果があります。

散布の目安時期は2月末から3月中旬頃で、生育期（但し、小麦収穫45日前まで、大麦90日前まで）です。



写真3 ハルタデ(1月撮影)



写真4 ハルタデが繁茂した
収穫前の小麦ほ場(5月撮影)

除草剤使用時の留意点

- いずれの剤も雑草茎葉処理で効果を発揮するので、対象雑草の発生を確認し、しっかり付着させることが大切です。
- 気温が高く天気の良い日に散布します。散布後2～3日程度、晴天が続くと効果は安定します。
- 散布直後の降雨により効果が低下するので、降雨前の散布は避けます。

農薬使用時には、必ず容器のラベルを確認し、登録内容にしたがって使用してください。